



特67-493



1200800273159

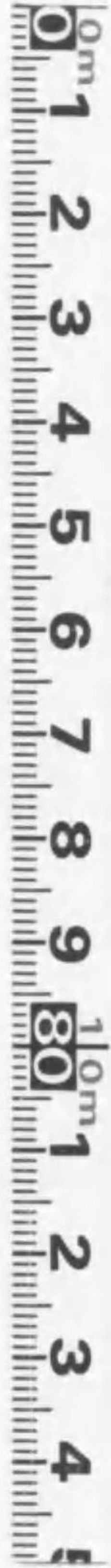
特67

493

新編
全巻

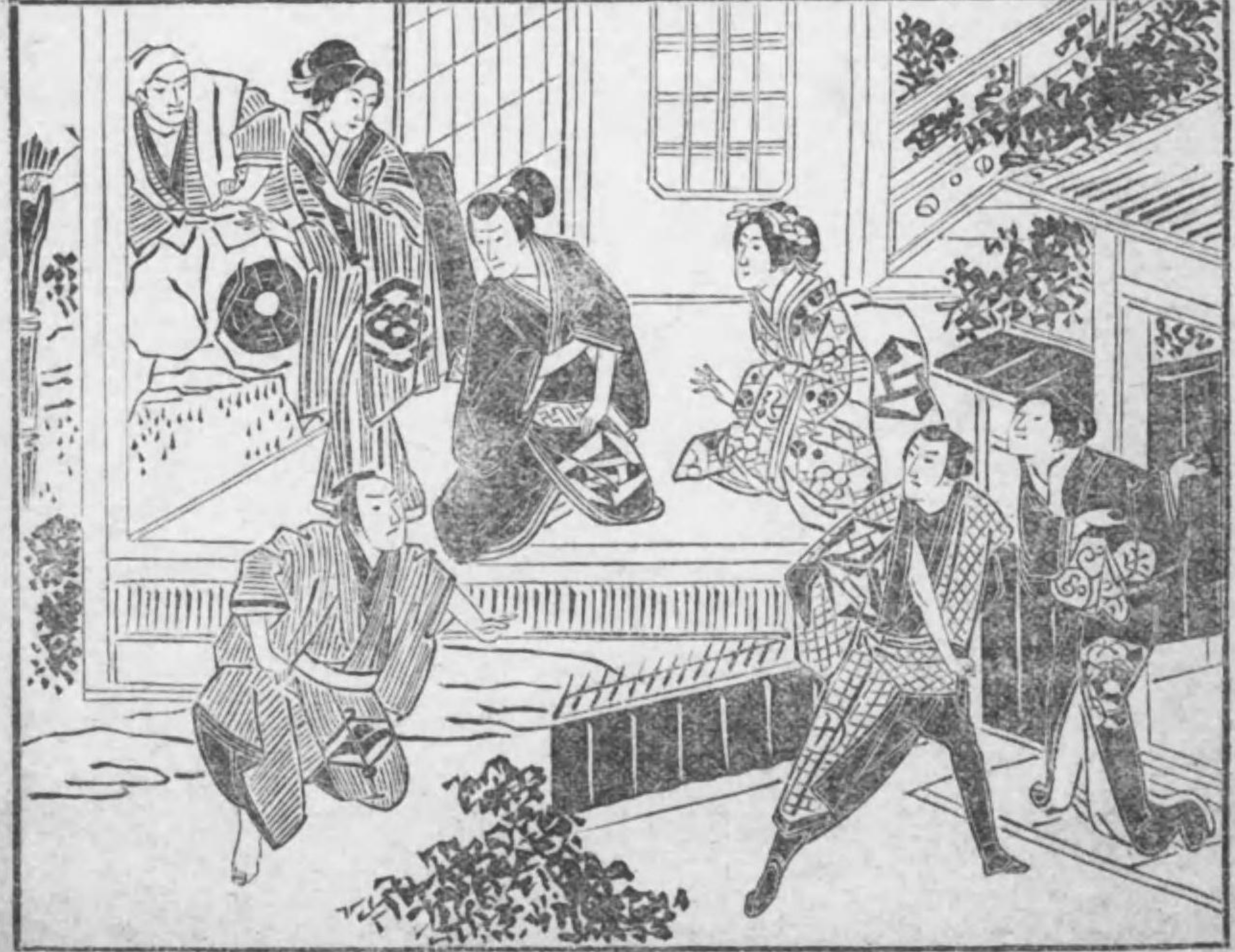
すぢかきあはれん

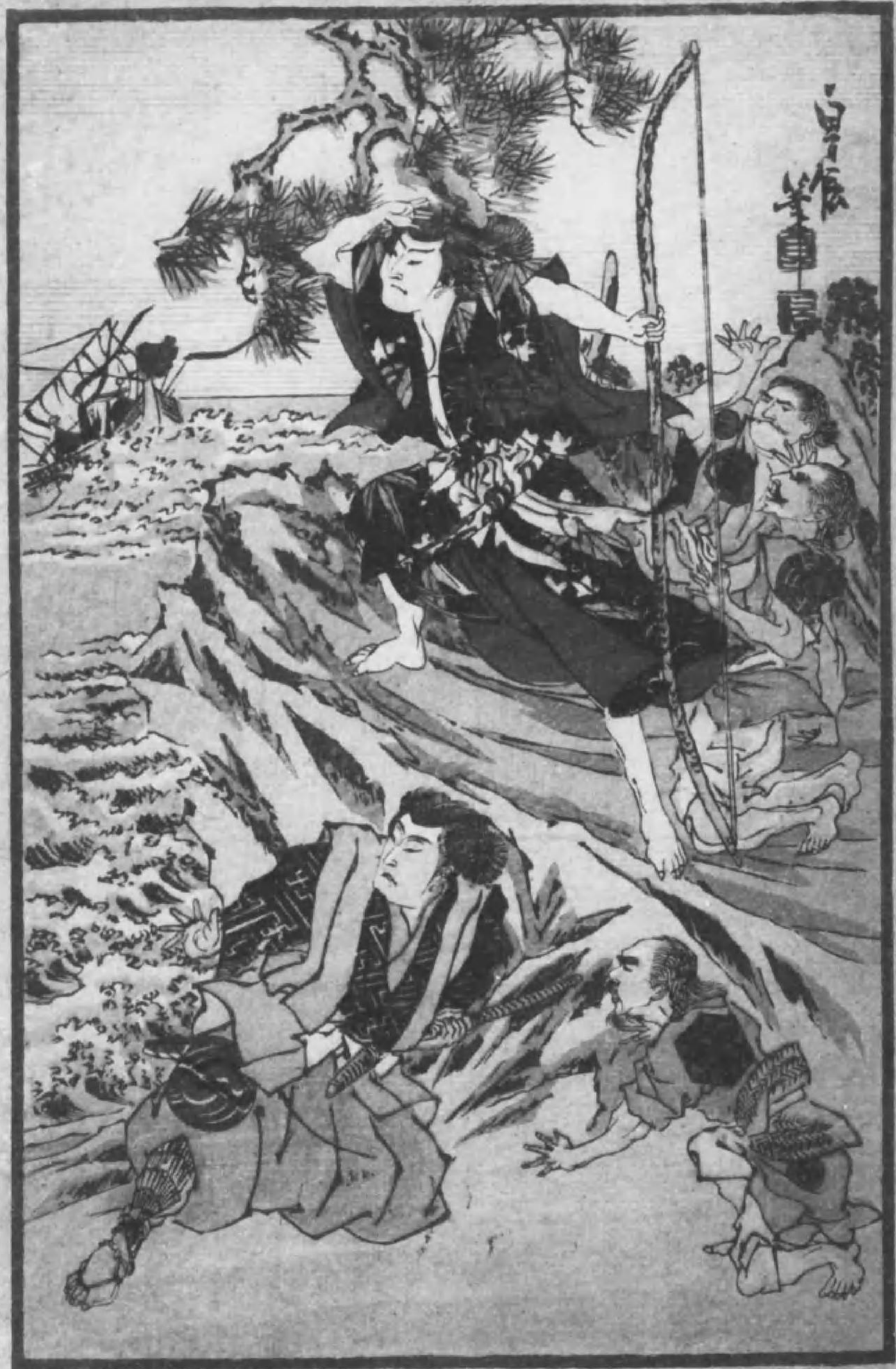
元板加藤文明堂



始





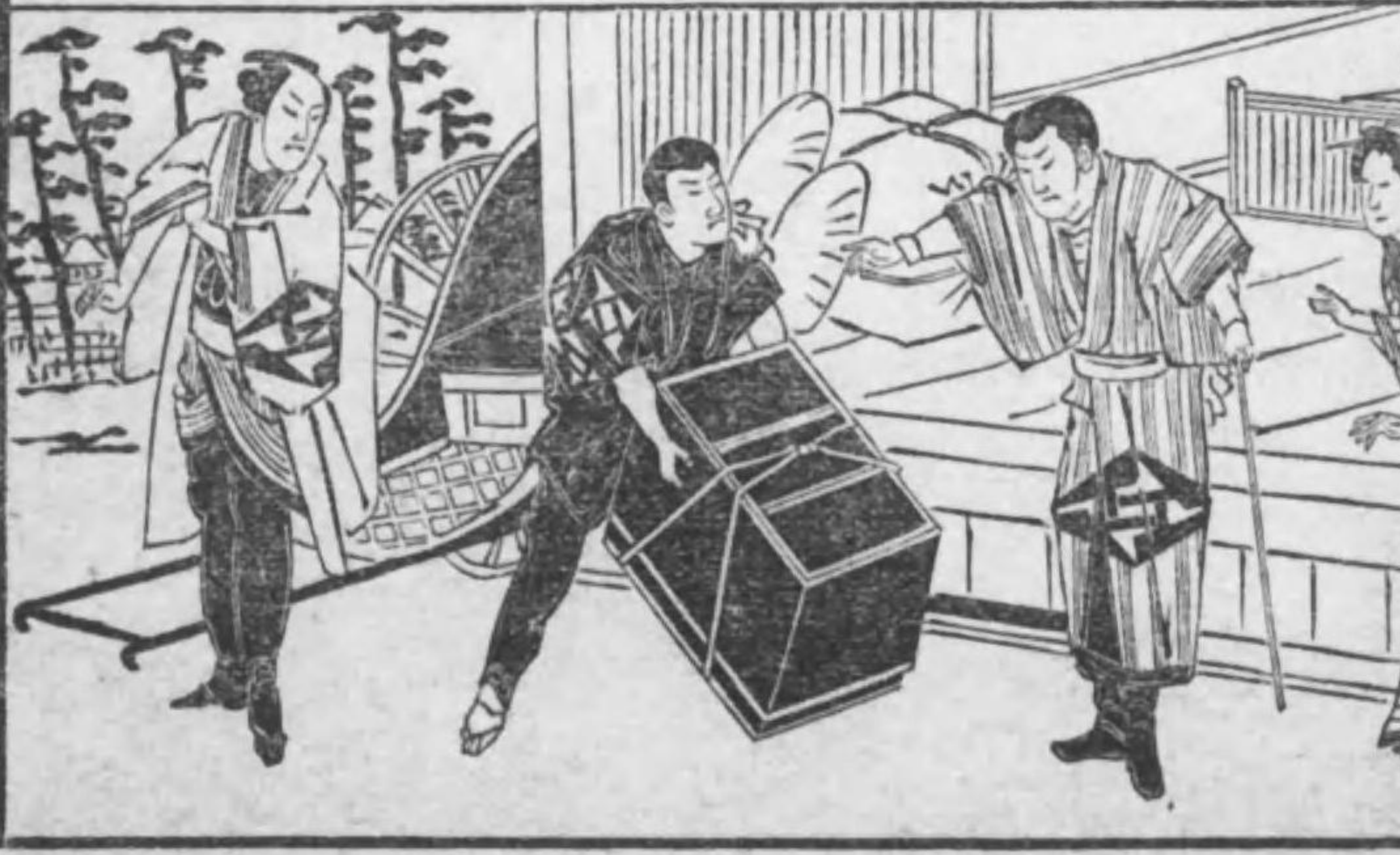


白旗 美作





大入道 浪系跡 古右衛門 寶心母





○序幕(肥後國阿蘇文珠院の場)茲ハ阿蘇文珠院法會の體にて愛へ領主三郎忠國の息女白織姫參詣の爲來たる隣國菊池左馬五郎と云者白織姫を妻にせんと忠國へ迫る折しも白猿一匹來たりて文珠院重寶菩薩の冠を引さらへ五重の塔へ登る件にて返し

○同じく(同院境内の場)文珠院境内にて三郎忠國及び當院の住職白猿が持登りたる冠を取戻んと種々工夫をなせ爰へ獵人喜平治と云者來り日來手練なる體を以て猿に投付無事に冠を取返そ此件よろしく八丁礫の名譽を現はしト喜平治の主君たる八郎爲朝を白織が聲にせんと忠國の懸望あそに因り左馬五郎のまそく意恨を含み奸計を巡らせ件にて幕

○二幕目(三郎忠國館の場)爰ハ忠國の館にて前幕にて契約なしたる八郎爲朝が當館へ入聲に來る忠國ハ爲朝の武術を試さん爲多くの侍女に命じて花の枝を持て立合させる美麗なる立廻りありて此見ゆよろしく返し

○同じく(對客の間)道具納ると爰へ清盛入道の上使なりと偽り隣國の領主權頭季遠ハ入來り其實阿蘇の重寶名玉を奪はん惡計なる事を早くも爲朝は察し其奸計を顯ハそ件より季遠、菊池、原田等ハ一味なし當館へ責寄せる事ありて此道具返し

○同じく(濱邊高殿の場)爰ハ三郎忠國が既に落城の體にて寄手の軍勢を防禦ことならず遂に切腹をなし爲朝に平家追討の事を依頼て彼の名珠を渡そ件よろしく爲朝は妻白織と侍女松が枝の両女を喜平治に預け兄義朝の意中を探らん爲め遠々都へ登る件よろしく幕

○三幕目(左馬頭義朝館の場)茲ハ源の義朝が館の體爰へ前幕の白織姫松が枝ハ爲朝に逢はんため喜平治を伴ひ來り此館へ忍び來る件にて返し

○同じく(玄關先の場)爰へ館主義朝ハ六波羅より歸館酒興酌前の體にて平家追討は斷念なし清盛に隨身といふに依り常盤御前家臣鎌田隼人の種々苦慮をなせこのしよろしく爰へ長田太郎入來り兼て義朝にハ他に情女なるよしを常盤御前に讒言し義朝と離別なして清盛にしたがへといふ件にて返し

○同じく(爲朝居間の場)白織姫は此處へ忍び來るを常盤の義朝が忍女と心得嫉妬の念よりさ、ゆるを爲朝ハ我妻なりと語る件よろしく義朝ハ爰に來り爲朝を討取清盛に其身の潔白を知らさんといふ兄の實心を察して爲朝は悲と討れん事を望み兄弟眞劍の立合をなせ事ハ朝は東路へ赴き頼平家を滅亡さんと夫婦兄弟主從哀

別離苦の情合宜しく幕
 ○四幕目(石山温泉宿荒川屋の場)八郎爲朝の前幕兄弟
 立合の際肩先へ少々請し刀疵を療養の爲花房左門と偽
 名をなし入浴のため此家に滞留なすまた當家の賀藤市
 といふ爲朝の父爲義に勤仕し者ければ爲朝が東國へ
 赴く事を清盛より嚴敷詮議をなし既に人相書を以て探
 索なすを舊恩を報せん爲忠義を盡す件にてまた此家の
 後家おふりといふの甥の武藤太と謀り褒美の金を得ん
 がため此悪人爲朝の事を訴人せんとす件宜しく返し
 ○同じく(湯治場)道具納るど入浴室にて爲朝が入浴を
 なす處へ平家方の侍士大勢忍び來り捕縛せんとすを
 爲朝は勇猛を顯はし多勢を合手に大戦をなす見得よろ
 しく荒川屋藤市は忠義の爲一命を捨て爲朝を救助ん
 爲そと爲朝の家臣鎌田隼人は捕人となりて出來り兄
 義朝の二心なき潔白の爲め一旦都六波羅へ引立行かん
 といふ爲朝も兄の難義を思ひ返し隼人の爲に捕縛され
 て都に赴く件宜しく幕

對面する件より頃と義太夫と取合せの振事ありて花美
 なるくだん都て爲朝が一睡の夢の体よろしく返し
 ○同じく(八丈嶋配所の場)前の夢の覺たる配所の体
 にて清盛のため爲朝は此處に流罪の身となり居る折柄
 喜平治の此嶋へ渡海なし來り爲朝に仕へん事を乞ふ件
 よろしくまた爲朝は喜平治を本國へ歸さんとなす所へ
 平家方の討人の軍船此嶋へ向ひ來るよしを島人等は注
 進なす爰に於て爲朝は日來の弓勢を以て遠かなる沖よ
 り渡航なす軍船へ矢をはなす此矢あやまたず船に當り
 てくつがへる見得よろしく尙も是より兄義朝と心を合
 して奢る平家を討つばし再度源氏の代に輝かさんと末
 世に遺を強弓と武名を顯はす件よろしく幕
 ○中狂言(新案にて爰へ百性異作の住家にて此異作は
 常に狐を喰事を好み其上殺生を爲そ者なれば女房や娘
 も度々異見をなせども聞入す爰に異作が伯父なる白藏
 主といふ出家は此家へ來り是もまた種々異見をなすこ
 どありて歸る其途路にて白藏主の狐の身振り爲そ異
 作は此体を見て扱ひ野狐の伯父と變化たるかど忽ち立
 腹なし殺害に及ぶ然るに狐ならぬ眞實の伯父にて本名
 は殿の法印了忠と名乗り官軍方の公達北山の君を異作
 が膽力を見透かしたる上此所へ誘ひ參らせ兼て意中を

明し守護を頼ひまた此異作といふも本名の連見下総と
 云ふ官軍方の武士なれば我娘を公達の身代りに立る件
 にて互ひに本心な物語り公達を守護なし此處を立退く
 件都て新狂言のおもしろき脚色にて幕
 ○切狂言(初幕神田佐久間町の場)茲へ東京神田佐久間
 町春見といふ泊宿の体にて主人丈助の以前前橋の士
 族なりしが近年東京に出て商業を始めたる手許は貧し
 き世帯にて困難なる處へ舊友なる井生森又作といふ者
 が尋來り食客にしてくれと頼み來る件より同じ前橋の
 商人清水助右衛門と云ふ生糸商の者は此春見や丈助と
 は舊來懇意なるにより尋ね來り商法を擴張せん爲所
 の家宅田地を質入したる金圓三千圓を持參して此度出
 京なしたれば此金を丈助に預け滞留なし生糸の仕入を
 せん事を話そに丈助のフト悪意を生じ此金の預書を渡
 し金を預る件にて返し

○三幕目(尼ヶ崎町の場)茲へ前幕より年數七ヶ年後の
 事にして春見丈助は諒奪たる金にて此所へ轉居なし高
 利金貸業をなし居る爰へ清水重次郎の父助右衛門の行
 方を尋ねんと東京に來り散髪床文吉に逢ひ兼て右郷に
 て馴染の事ゆゑ委細を語り兩人にて春見へ來り丈助に
 父の在所を尋ねれども知らぬとの返答に是非なく立歸
 るまた井生森又作の丈助が當時富豪となりしを聞き

○二幕目(古河驛船宿の場)爰へ船宿井上の体にて爰へ
 井生森又作は彼葛籠を持參なし止宿て佐野迄人力車を
 雇ひ出立の模様にて返し

○同じく(沼田堤の場)都て上州街道沼田堤の体にて爰へ
 車夫嘉十は前幕の又作を人力車に乗せて挽來り葛籠
 の中には人の死骸を入たると察し酒代を強談ことあり
 てトト又作は貳十圓を嘉十に遣りて俱に沼中へ死骸を
 隠そまた又作は嘉十が後日口外せん事を恐れ殺意を生
 じ車夫を殺して沼へ投沈める件にて幕

○付預金返却の事をせまる此件ありてトト丈助の助右
 衛門を殺し食客又作に金貳百圓を與へ死骸を取捨く
 れよと頼ひまた又作の死骸を葛籠に入三千圓の証書を
 奪隠し上州佐野へ赴く途中にて死骸を隠さんと此家を
 立出る件よろしく幕

序幕のそぢを言立千圓の金を合力せよと頼みに来る丈
助の悪事露頭を恐れ金談を承引靈岸嶋の高橋にて出會
事を約して別れる件よろしく幕

○四幕目(龜嶋山貧家の場)清水重次郎は當時車夫と零
落て此所に暮し貧苦の中にて眼病の母と婦おまきを孝
心の件又て返し

○同じく(雇人宿お虎の内の場)爰はお虎の内の体にて
爰へ家根屋清次郎といふ者の重次郎の姉お巻を妾にせ
ん事を望みおどらへ周旋を頼みに来る件よりお巻は此
家に来り貞實を守りて此相談を謝絶種々身の素性と薄
命を物語るまた此清治は前年伊香保の温泉にて助右衛
門に高恩を受けし者故恩人の娘と知り戀情を斷念眞實
方盡力なし助右衛門が在家日は春見丈助の舉動を探ら
んと意中をあかしてお巻の爲に舊恩を報ふ件にて返し

○同じく(靈岸島高橋の場)前幕の又作の鍋焼うどんを
商ひ居る處へ丈助は来たりにて約束の千圓の中へ三百圓
を渡し殘金七百圓は近日又作の住家へ持參せんと云ひ
住家を聞く事ありてまた三千圓の証書を返しくれとい
ふに又作の知らぬといふ此問答を前の清治の小影にて
立聞なし丈助の悪事を知り尙此上へ又作の住家へ赴き
とくと探索せんと悦ぶ件また丈助と又作の再會を期し

て立別れる件にて幕

○五幕目(茅場町藥師堂の場)爰は重治郎が母の眼病平
癒を祈らんと日參なし居る件より清治は又作が隣家に
て實否を探るため手傳の竹藏に云含めて事をはかる件
よろしく返し

○同じく(又作住家の場)爰は又作の内にて前の竹藏の
世話にて清治は隣家へ忍ぶ事などありて爰へ丈助は約
束の殘金七百圓を持參し来る上又作と酒宴を催はそ又
作は惡業の報にや河豚を喰ひて毒氣にわたり死せる件
より丈助は忽ち悦び持參せし金を取返し其上証書の在
所を尋ぬれども知れざれば不得止其儘立歸る件よろし
くまた清治は甥と此家に来り兼て又作がうどん粉の箱
へ秘藏置たる彼証書を取り出し丈助に強談の上重治郎母
子を救助んと竹藏が働らき謝せくだんよろしく幕

○六幕目(藥師境内宮松の場)爰は宮松の場にて丈助の
娘おいさは重治郎が孝心なるに戀慕なし下女お兼に命
け重治郎を招き金拾圓と高價なる指輪を惠まんとそれ
ども重治郎は仇ある春見の娘なればとて承引せし金品
ども返却とありて番頭の義兵衛が出来り娘を連れ歸る
件ありて重次郎の母お元姉のお巻棟梁の清治も此處へ
來り重次郎が潔白心底を感じて賞する件よろしく返し

終